

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 **小羊学園**

〒431-1304

静岡県浜松市北区細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P http://www.imix.or.jp/kohituji/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2007年9月20日

第 296 号

この子らを

愛でし心が 合わせられ

世に示したい 一筋の光を

— 移転改築へのご協力をお願い —

理事長 稲松 義人

小羊学園（児童寮・青年寮）の移転改築計画が着工を目前にして、資金計画の見直しを迫られ、追い詰められています。自分たちの力ではどうしてもやりくりがつかまません。皆さんに応援していただかなければならない事態になってしまいました。ご心配をおかけし申し訳ありません。大きな課題もちながら、自分たちの置かれた状況をしっかりと予測することができず、ここにくるまで必要な手立てを思いつけず、適切なリーダーシップを取れなかったことは、私自身の力のなさであると痛く感じています。しかし最後まで、神さまの導きがあることを信じて、今は皆さんに力をお貸しただけるようお願いするしか術がありません。募金目標としている二億円のうち約半分は、他の施設のための積立金を流用したり、許される範囲で財産を処分したりして、資金のやりくりでカバーすることも考えていますが、残りの約一億円は何としても募金によるご支援を、と願っています。

聖書に、キリストのところ集まった五千人を超える人たちに、何も無い荒野で食べ物を配る話があります。弟子たちは無理だと訴えますが、キリストはそこに差し出されたわずかな食べ物を感謝し、みんなに分け与え、そこにいたすべての人が満ち足りたという話です。一億円というのは、百人の人がそれぞれ十人をお願いし、その十人がまた次の十人をお願いしていただき、その十人がまた次の十人をお願いしていただき、と、お一人千円ずつのご協力で達成できる金額です。昨今の報道から社会福祉に対して不信をもつ人たちも多いでしょう。その中でこのようなお願いすることは、容易なことではないと思われれます。しかし、これまで小羊学園のあゆみを覚え、支えてくださった方が、小羊学園の働きを、またそこに生きる子どもたち（知的障がいのある人たち）の命の輝きを大切に思ってください、その思いを集めてくだされば、きっと実現できると信じます。小羊学園の歴史を振り返ってみれば、そこにはいつも多くの人たちの支えがあり、それがなければ、これまで歩んでくることはできなかったことを教えられます。創立者の山浦先生も「みんなが寄って集（たか）って支えてくださった。」という表現で感謝の思いを伝えておられます。昔も今も小羊学園の願いは一点です。「たとえどんな障がいをもって生まれ

てきたとしても、すべての子どもたちが一人も漏れることなく、幸せな生涯がおくれるようになる」ことです。中心にいるのは、重い障がいをもって生きる一人ひとりの子ども（人）たちです。これまでも、いつもその時々必要に応じて小羊学園が支えられたのは、それらの子どもたち（実際にはすでに成人した人も多いのですが）を大切に思い、温かい心を寄せてくださったお一人おひとりの理解と協力の賜物にほかなりません。経済力と効率を追求する時代にあつては、ことさら小さい存在のように思える重い障がいをもった子どもたちです。しかし、そんな「小さい者の一人」を中心に、彼らと共にあってその命に添いたいと願う人たち、そしてそのことに共感し周囲から支えてくださる人たちの輪が社会に広がっていくとき、私たちの住む地域が助け合い支え合う、本来のコミュニティとしての地域としてよみがえるのではないかと思っています。政治も経済も混迷を続ける世界にあつて、私たちの小さな願いを通じて、ささやかな、しかし本当に大切なメッセージを多くの人に届けることができれば幸いです。どうぞ、皆さんお一人おひとりがそれぞれ周囲にいる人たちにその輪を広げてくださり、ともに未来を拓いていくことができれば幸いです。宜しくお願いいたします。

浜松市南地区で	の事業展開
---------	-------

小羊学園（児童寮・青年寮）は、政令指定都市になった浜松では「北区」に位置し、支援センターわかぎは「浜北区」にあります。どちらも浜松駅を降りてバスに乗ると北に向かって三〇分から一時間弱かかるところにあります。逆に児童寮の子どもたちも通う浜松養護学校は、浜松の一番南にあります。三年前から、養護学校の近くにある浜松福祉協働センターアンスンブル江之島の中で、マルカートという通所事業を始めましたが、そこで取り組んできた障がい児のための学童保育「ドルチェ」と、今年度から設置された相談支援事業の「アグネスみなみ」の活動についてレポートしてもらいました。

ドルチェの夏休み

マルカート施設長 古橋 誠

放課後児童サポートセンター「ドル

チェ」がアンスンブル江之島で放課後支援を行うようになって、二年半が経ちました。この間、事業運営基盤となる制度は二回も変わりました。開所当初は浜松市心身障害児放課後等対策事業、一八年四月からは浜松市発達障害児等生活支援事業、一八年一〇月からは自立支援法に基づく日中一時支援事業となり、マルカートの付帯施設として表向きにはドルチェという名前はなくなりました。しかし、これまで利用されている人たちもいますので、そのまま「ドルチェ」という名称を使用し、現在に至っています。現在の日中一時支援事業になってからは、利用者の自己負担が軽減されたり、時間単価が上がったりして、放課後支援事業所としては若干運営しやすくなってきました。しかし、安定的な経営は難しく、どここの放課後支援事業所も直接処遇職員の大半は非常勤職員というのが実情です。

ドルチェの夏休み準備は六月から始まります。今年も、夏休みの利用希望を六月中旬に登録児童からとり、六月初旬には利用日決定を行いました。毎年そうなのですが、利用希望を調整するには頭を抱えます。同じ日に定員以上の希望があったり、同一日に支援度の高い子どもが集中したり、子ども同士の関係性で配慮すべきだったり、調整役をする担当職員は特に苦勞の連続です。



養護学校の夏休みは七月二五日〜八月三一日です。この間、週末やマルカート夏季休暇を除く二三日間に、毎日二名前後の子ども達が利用をしました。登録児童は七七名いますので、長期休暇登録児童が六日間、放課後登録児童が三日間の利用となりました。今年は安全性や支援内容を高めるため、学生アルバイトを入れて、一名職員増を行いました。夏休み中の稼働時間は九時から一六時までです。プログラムは、プール遊び・昼食作り・音楽・創作活動・買い物・ドライブなどの計画を立ててました。特に六階の展望浴場を使っていたのプール遊びは子ども達に大人気でした。暑い夏、涼を求めて冷たい水を掛け合うことは子ども達にとって、とても楽しいひと時だったと思います。また、昼食作りでは子ども達と一緒に材料を切ったり、ホットプレートで焼いたりしました。そして、出来るだけまでの時間を共有しながら、どんなご飯が出来るのか期待に胸を膨らましていました。また、放課後時間では出来ない遠足を二回実施しました。行き先は、浜名湖水族館「ウォット」とうなぎパイ工場見学です。普段と違ったお出かけに子ども達はウキウキワクワクです。「ウォット」では、浜名湖に生息する生物を見学したり、手で触れてみたりと楽しい体験をする事ができました。うなぎパイ工場では、生産過程を見学しお土産にミニうなぎパイも頂いてご満悦な様子でした。ご家族でもお出かけすることはあるかもしれませんが、お友達と一緒にの外出は、また一味違った経験となったでしょう。今後、安全面に配慮しながら、外出や親子遠足なども企画したいと思っています。

先日、浜松市内各養護学校（浜松・西部・浜北・浜名）を対象に放課後支援に関するアンケートを保護者に配布し、集計しました。このアンケートはドルチェのような放課後支援事業を実施している浜松市内八事業所で組織する浜松市障がい児放課後支援連絡協議会（仮称）が実施したものです。各養

護学校への総配布数は五八二名、回収数三三三名でしたが、集計から、障がいを抱えるお子さんの夏休みへの課題が浮き彫りになってきました。四〇日近い夏休みを、どのように過ごすかは保護者にとっては大きな悩みです。



毎日は無理でも、週に二、三回は通える場所があると嬉しいという意見や、子どもが安心して過ごすことが出来る場所が必要だ、と言う意見など、個々の状況に応じたニーズが見えてきました。中には何箇所かの放課後支援事業所やショートステイを利用しながら、その日その日の対応に四苦八苦している親御さんもおられました。このような状況に一放課後支援事業所がどううできる課題ではありませんが、皆が

同じ課題を共有し、横のつながりの中で、同じ方向を向きながら行政・学校・相談支援事業所とネットワークを持ちながら考えていけたらと願わずにはいられません。来年も再来年もその翌年も夏はやってきます。その時に、去年より充実した夏休みが過ごせたと子ども達に実感してもらえよう今から模索していきたいと思っています。

学校の夏休みと

家族の相談

アグネス・アグネスみなみ

所長 雨宮 寛

こんにちは、「アグネスみなみ」です。

この四月にアグネス同様、浜松市障害者相談支援事業所の委託を受けて五ヶ月がたちました。なかなか準備が整わず、本格的な立ち上げができませんでした。この八月に、マルカートの夏休みにあわせ事業所の改修工事をさせていただきました。面接室と事務所が一緒になった小さな事業所ですが、マルカート同様、地域を支える資源として利用していただけたら幸いです。地域的に養護学校や南区役所も近く、それぞれと連携を図りながら、障害児・

者やその家族への新しい支援の形を創って行きたいと思っています。

話は変わりますが、今年の夏は、例年に無い猛暑といわれていました。皆さんは、楽しい夏の思い出はできましたか？

学齢児にとっては、長い夏休み、その中でも障害を持つ子供たちや家族はどう過ごされていたのでしょうか。「アグネス・アグネスみなみ」では、

夏休みが近づくにつれ、相談依頼が増えていきました。夏休み中に利用できる福祉サービスについてというものが主な相談内容です。そのサービス利用の理由は、様々です。両親が共働きで面倒を見る人がいない、一日家ではやるのが無い、生活リズムが崩れて子供が落ち着かない etc... 浜松市において、夏休みに障害児の受け入れを行う施設や場所は、年々増えています。

夏休みの期間、アルバイトやボランティアを動員して、できる限り受け入れを行ってくれた事業所も少なくありません。それでも相談を受けるニーズからは、「足りない」と感じる状況が見受けられます。夏休みの数日を、受け入れ先で楽しそうに過ごしていた子供たちの笑顔と、夏休みが終わり「ほっ」としている家族や親御さん、普段以上に「へとへと」になっている事業所の様子が、如実に現状を表していると感じます。

障害児や家族にとって長期休暇の過ごし方の問題は、幼児期・児童期にかけて長く続いていく課題です。このことは、受け入れを行うそれぞれの事業所だけが考えることでもありません。

家族や親だけが考えて解消されていくものでもありません。受け入れ事業所も親も学校も行政も地域社会も一緒に考えていくことが必要だと感じています。また、このことは、地域社会における障害者の様々な問題において同様のことが言えると考えます。「アグネスみなみ」としても、積極的にその一役を担っていかなければならないと痛感しています。その意味でも、養護学校、行政が近隣にあり児童の受け入れ事業所のあるマルカートと「アグネスみなみ」は、何か(新しい支援)ができる期待感があります。

「アグネスみなみ」の働きは、始まったばかりです。アンサンブル江之島の、そのまたマルカートの中の小さな事業所ですが、小さな声(相談)を大事に積み上げて大きな輪(地域支援)に広げていきたいと考えています。「アグネスみなみ」を今後ともよろしくお願

いします。



コミュニティの再生をめざす③ 地域の人も一緒に楽しむ 小羊学園のイベントを通して

今年の夏は一段と暑い夏でした。異常気象だと言われますが、夏が暑いのは昔からのことです。だからこそ夏には夏らしい楽しみ方が受け継がれてきたのだと思います。小羊学園でも、地域の人たちと一緒に楽しむ四季の行事として、七月か八月には、毎年夏祭りを催してきました。今年は例年より少し遅めでしたが、八月一日の夕方に芝生の中庭で夏祭りが催されました。

今年、模擬店として例年のかき氷などに加え、浜名湖ロイヤルホテルさんからお申し出があり、ホテル特製のカレーと一口ステーキを露店で振舞ってくださり、ちょっと嬉しい夏祭りの夕食になりました。企業の社会貢献についての話題は以前に比べるとよく耳にするようになったような気がします。が、実際に私たちと接点をもってくださるところはそれほど多くはありません。浜名湖畔にあるスポーツ施設も併設したりリゾートホテルとして、以前から少し知っていました。ドライブなどでそばを通るときに、青い空に映える白いホテルに、今までと違った親しみを感じそうです。

そして今年も地元細江町の湖東民

踊クラブの皆さんが、盆踊りのために練習のときから振り付けのご指導をしてくださり、夏祭りの本番でも色鮮やかなお揃いの法被姿でムードを盛り上げてくださいました。

それ以外にもボランティアとして手伝ってくださる地域の大学や専門学校の学生さんたちの応援があり、家が近い利用者さんのご家庭には家族全員で参加してくださるところもありました。他にも退職した職員、養護学校の先生もご参加下さり、小羊学園とのつながりから一つの輪が広がったように感じました。

そして夏祭りのフィナーレは、仕掛け花火「ナイアガラ」です。静かに流れ落ちる光の滝に照らし出されるみんなの顔。一人ひとりの目にはどんなふうに映ったのでしょうか。夏の一夜の楽しい思い出になったでしょうか。



浜名湖ロイヤルホテルのカレーライスとミニステーキは大好評でした。

支える会だより

移転改築のために特別募金をはじめました。皆様の周囲の方で、募金をお願いできそうな方がいらっしゃいましたら、是非、ご紹介ください。この募金活動の輪が、友だちから知人に、その知人からまたその友だちへと広がっていくことを願っています。ご協力いただいた方には、「つのがえ」をお送りします。知的ハンディのある人たちを真ん中にして、今の時代忘れがちな心のつながりの感じられるコミュニティの再生に少しでもお役に立つことができれば幸いです。福祉社会の実現のため、法律や制度では達成しにくいところを埋めることができるのではないかと考えています。

2007年度小羊学園を支える会寄付金報告

8月分 32件 358,000円
(累計 179件 3,384,631円)
皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

小羊学園・移転改築計画にご協力ください

(口座名義)「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
静岡銀行細江支店 (普通) 043483

問い合わせ先：小羊学園
〒431-1304 浜松市北区細江町中川 7440-1
電話 053-437-0826

ボランティアスタッフ募集

重い知的ハンディのある人たちの日中活動時間、散歩やグループでの活動と一緒に参加して下さるボランティアを募集しています。

年齢、性別、資格、経験は問いません。知的ハンディのある人たちとの交流に関心のある方、是非「こーく」ください。少しずつでも継続できる方は大歓迎です。活動場所は、小羊学園(浜松市北区細江町中川)の近く。大まかな時間は、①午前九時半～一二時、②午後一時半～三時半(時間活動日については相談に応じます。)
連絡先：小羊学園(稲松、出水)
電話(〇五三) 四三七一〇八二六

編集後記

小羊学園では、夏に短い帰省期間を設けています。昔と違って年長の人たちは特に、長期間帰省することは難しく、小羊学園として一斉に夏休みにすることはできません。それぞれに合わせた帰省です。両親に恵まれず帰省先をもたないアキ君も、帰省のときに山浦園長の時代からずっと受け入れてくださっている富山県の青山さん宅で一週間の夏休みを過ごしました。帰る場所があることは、とても大きな心の支えなのだろうと思います。言葉で上手に伝えることのできない人たちですが、心のつながりを大切にしてくださる方たちの友情に心から感謝です。(一)